第四講　随筆

次の文章を読み、後の問に答えよ。

　人間は余り長期にわたって患うていると、飽かれて邪魔者にされるものだ。私の義父は七年間病床にいるあいだ、継母（ままはは）から粗末な扱いを受けて亡くなった。義父が小用のために母親を呼び、母親は春先のことで外出していて、家の中で彼女を呼ぶ義父の声が、外は［ 1 ］であるのに私の耳に悲しくひびいた。

　ある出入りしていた大工さんで腕のよい男があった。妻は永い間の糖尿病がもう眼に来ている程わずらっていたが、それでも手捜（てさぐ）りで飯を焚いて亭主を仕事に出していた。しまいには[2]勝手に這うて行ってお菜をこしらえていたが、大工さんは入院とか医療の思いやりをしてやらなかった。そういう余裕もなかったのであろうが、私はその大工さんの顔をみると女房さんは大事にしてやれと繰言をした。大工さん自身も酷い喘息（ぜんそく）持ちでお医者は夜中に電話がかかって来れば、大工さんの喘息が起ったのだと決めていたくらいであった。この二人の人間は前後して亡くなったが、どちらもお互に看護されずに一人ずつ孤独で窮死して行った。

　ある鳶職（とびしょく）の人がたまに私の家に仕事に来て、家内がまた病気しているが今度こそだめだろうと言い、こんどこそ自分で片をつけてくれなければ困るとこぼし、一年経った後にまた来て今度こそと思っていたが、恢復して動き出したと言い絶望の面持（おももち）だった。生きる人間が生きるために、相手の死の早いことを願っているのである。（中略）

　私と妻のあいだでは、妻は何時も先に亡くなればいいんですがねと言い、あなたが先だと後の事が大変ですからといった。それは何でもない時の、そういう話が出て来なくても宜い折にぽっそりと、[3]印章を捺（お）すように一年に二度くらい出てきたのである。私はどちらが先になり後になるにしても、死ねばきっと後々は巧（うま）くゆくものだ、年齢から言えば私が先に廻ることになる。第一この頭に不相応な仕事の無理が怖い、きみはそうして病気と対決しているから守られていて、[4]網の目の中にいるが、私は自分で気を付けていても野放しのところがある。気を付けている時間に較べると、途方もないところに隙間があるから、持って行かれる率が多いというふうに言い、妻は結局後にのこるということに無理がないように思うていた。そしてその様な折に[5]妻

はあたたかい微笑をうかべ、私はそれを生きぬく人の嬉しさだという解釈の下で見ていた。大工さんの話や鳶職の人の話はそういう雑話の中の人物であって、私に慄然として恐怖をさそい込む程ではなかった。（中略）

　私は女の人の事でぼろを出したためしは、一度もなかった。ぼろがあれば匿さなければならないし、匿し終せないようなぼろなら、始めから下げていた方がよかった。女の人からの手紙は一応私が読み、そして妻に読んで貰い、その人が訪ねてくれば手紙の主であることを判るようにしていた。夜は一さい外出をしない習慣のある私であり、昼間は娘が蹤いて来るくせのついた私には、信を置く点では完璧のものだった。その信を壊すということは愚かさも極まった者である。ただ、やはり6私の始終気にしていたことは大工さんや鳶職の人のことであり、この人達が病妻への酷たらしい思いは、この人達ばかりが持っていた残忍さであったかということになれば、それはこの人達だけが抱いている考えでないことが言えるのだ。その中に私も当然編入されてよい薄情と残酷とを包み匿せないと白状した方が、純粋であるように思われる。彼らは必要と欲望に迫られていたが、私にはその残酷な凝念の必要がなかったのだ。何をするにも妻ウメ子は邪魔者にならなかった事である。何でも許し何にも信を置いている倖せな人には、殆ど私は感謝され通しであってその為に却って私は赤面したくらいであった。この人もおお方多病だから死ぬであろう、早く死ぬか遅く亡くなるかの問題にぶつかると、私はその考えを考えることを打拋っていたくらいである。そこに大工さんや鳶職の人の考えを見出すたびに、私はその考えに近づいてはならない、近づくだけでも大工さんや鳶職の人の考えと一緒になることを怖れていたのである。

　人間の永い生涯には妻が先に死んでくれた方がいいと、ちょっとでも考えない人があっただろうか、その夫が若し先に亡くなったら、ああしよう、こうしようと死後の策を考えない婦人があっただろうか、折々確りした眼付と身構えを持って見合せた眼こそは、たしかに今まで生きて来た［７］を講じかかる、退ぴきならない眼付だったのである。どちらかが生きのこった時には、先ず後始末をしなければならないのである。

　人間につきものである晩年の悲劇は、二人とも半ば老いた時に開始され、間もなくその一幕は終る。それも三、四年も経てば忘れまいとしても忘れて了う。自分自身も詩も恋愛もないところ、何も見えて来ないところ、何も考える事さえ出来ない所に追い出されるのだから。たとえ夫婦同体であっても其処まで行けばばらばらになって死なければならない、老いて生きのこった一人は、日向ぼっこをして欠伸をしながら呟く、あの人は一体何処に往ったのだろう、あんな笑い顔はどうなったのであろうと、

美しい物が滅びた後は、[8]もっと美しい物が見えてくる時を待機するようになるのである。

（室生犀星『生きたきものを』より）

問1　空欄1に入るもっとも適切な一字の語を、文中から探して答えよ。

問2　傍線部2「勝手」を、別の二字の語で言い換えよ。

問3　傍線部3「印章を捺すように」とはどのような意味だと考えられるか。もっとも適切なものを次から選び、記号で答えよ。

イ　はっきりした契約を結ぶように　　ロ　それとなく確認しておくように

ハ　不意打ちで選択を迫るように　　ニ　冷たい事務的な調子で

ホ　どうでもいいような投げやりな調子で　　ヘ　子どものように無邪気な調子で

問4　傍線部4「網の目」と対比的に用いられている二字の語を、文中から探して答えよ。

問5　傍線部5「妻はあたたかい微笑をうかべ、私はそれを生きぬく人の嬉しさだという解釈の下で見ていた」という場面では、妻と「私」はそれぞれに相手をいたわりつつ、互いの心の奥底にあるものを見ない（あるいは見せない）ようにしているように見える。この個所と対照的な場面がこれより後の文中にあるが、その中で「あたたかい微笑」と対比的に用いられている表現を探して、十字以内で書け。

問6　傍線部6「私の始終気にしていたことは大工さんや鳶職の人のことであり」の箇所で、なぜ「私」は彼らのことが気になるのか。次の中からもっとも適切なものを選び、記号で答えよ。

イ　病妻の面倒も見られない彼らの貧しい暮らしぶりが身に迫ってくるので
ロ　彼らに酷く扱われる妻たちが哀れに思えてならないので
ハ　彼らのように妻の信を壊すのはあまりにも愚かだと思えるので
ニ　自分も彼らと同じような残酷な思いを持っていることが意識されるので
ホ　人間というものは薄情を隠そうとしても隠しきれないので
へ　彼らのことを思えば自分も少しくらい妻の信を壊してもいいかと思えてくるので

問7　空欄7に入るもっとも適切な語を次から選んで、記号で答えよ。

イ　改善策　　ロ　対抗策　　ハ　防御策　　ニ　懐柔策　　ホ　善後策　　へ　次善の策

問8　傍線部8「もっと美しい物」とは、どのようなものだと考えられるか。六字以内で答えよ。

問9　この文章全体に題をつけるとすれば、どのような題がふさわしいと思うか。もっとも適切なものを次から選んで、記号で答えよ。

イ　生と死　　　　ロ　あととさき　　　ハ　妻とわたし
ニ　やまいと老い　ホ　夢とうつつ　　　へ　大工と鳶職

知識モノ解説

文学史・人物紹介

●筆者　室生犀星＝むろう　さいせい（一八八九〜一九六二）石川県金沢生まれ。金沢高等小学校中退。詩人。小説家。代表作『幼年時代』（センター小説で出題）『性に目覚める頃』。故郷を詠んだ詩として「ふるさとは遠きにありて思ふもの　そして悲しくうたふもの」が有名

語句

繰言＝くりごと→何度も飽きずに言うこと。愚痴（ぐち）をこぼすという意味もある

窮死＝きゅうし→病気や生活難で苦しんで死ぬこと

鳶職＝とびしょく→建築現場で、建物の組み立てなどを行う職

恢復＝かいふく→ケガや病気からもとの健康状態にもどること。回復とも書く

不相応＝ふそうおう→自分の力量にふさわしくない

慄然＝りつぜん→おそろしさにぞっとする　関連語「戦慄（せんりつ）」→ふるえあがること

倖せ＝しあわせ→基本的には「幸せ」と同じ。あえて「倖」の意味を強調するなら、思いがけないしあわせのこと。
　熟語なら「僥倖（ぎょうこう）」

退ぴきならない＝のっぴきならない→引くにひけない・どうしても動きが取れない

復習問題　第四講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）邪マ者の侵入を瀬戸際で防ぐ　①魔　②間　③摩　④磨　⑤麻
（イ）資金の余ユウがなくなる　①憂　②裕　③勇　④融　⑤雄
（ウ）臨床でのカン護の仕事に就く　①患　②環　③監　④看　⑤寛
（エ）能力に不相オウな職を辞する　①王　②応　③央　④往　⑤横
（オ）残ニンな仕打ちに抵抗する　①認　②妊　③任　④人　⑤忍
（カ）犯行の理由を白ジョウする　①情　②譲　③状　④浄　⑤剰
（キ）自宅で待キするよう命じる　①起　②期　③機　④基　⑤企
（ク）詩人のジュン粋さに感動する　①潤　②純　③準　④殉　⑤順
（ケ）温暖な地方でバン年を過ごす　①盤　②坂　③伴　④蛮　⑤晩
（コ）構造がソ末で家が倒壊する　①疎　②阻　③素　④租　⑤粗

第四講　模範解答

問1　春
問2　台所
問3　ロ
問4　隙間
問5　退ぴきならない眼付
問6　ニ
問7　ホ
問8　生前の思い出
問9　イ

復習問題　第四講　模範解答

（ア）①　（イ）②　（ウ）④　（エ）②　（オ）⑤
（カ）③　（キ）③　（ク）②　（ケ）⑤　（コ）⑤

解答漢字一覧

（ア）邪魔者　（イ）余裕　（ウ）看護　（エ）不相応　（オ）残忍
（カ）白状　（キ）待機　（ク）純粋　（ケ）晩年　（コ）粗末